

考古学概論 2

担当教員 宮城 弘樹

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

考古学の目的や遺跡調査の実際について紹介し、考古資料が歴史資料として研究素材となり、公開されるまでの経緯を学ぶ。考古資料の展示などの実例に触れ、考古学の基本的な方法論等について学習し、展示される考古資料について理解を深める。遺跡出土資料が展示・活用される実例を中心に講義する。

考古学はモノや残された痕跡などから歴史を復元する学問であることを理解し実物資料の展示を通して歴史解説を行う表現力を養う。

【授業の展開計画】

博物館等見学を1回予定する

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	考古遺跡と発掘成果
3	世界遺産と遺跡修理
4	考古資料を知る（1）収集の実際と関連法規
5	考古資料を知る（2）多様な考古資料
6	考古資料を知る（3）遺物と遺構の公開と活用
7	パブリック・アーケオロジー（遺跡と社会との関係）
8	出土文字資料
9	技術復元と実験
10	考古学の諸分野（1）先史、原史、歴史考古学・地域考古学・等
11	考古学の諸分野（2）環境考古学・動物考古学・民族考古学・等
12	考古学と隣接分野（1）文献史学・民俗（族）学・地理学・等
13	考古学と隣接分野（2）人類学・自然科学・等
14	市民と遺跡
15	テスト
16	

【履修上の注意事項】

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語・飲食）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けない。

【評価方法】

出席、テストを評価対象とする。

【テキスト】

基本的に講義形式で行い、毎回資料を配布予定。

【参考文献】

鈴木公雄1988年『考古学入門』東京大学出版会。松田陽・岡村勝行2012年『入門パブリック・アーケオロジー』同成社。澤村明2011年『遺跡と観光（市民の考古学）』同成社。

博物館概論

担当教員 稲福 政斉

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目は博物館学芸員を目指すうえで最も基礎的な事項である、博物館の設置の意義、歴史、種類、機能等をはじめ、学芸員の果たす役割や博物館関係法規、博物館倫理といったことに関する理解をねらいとするものである。また、講義名に概論とあるように学芸員養成科目全体を俯瞰し、相互の関連等にも意を払いつつ授業を進める。

【授業の展開計画】

授業は講義形式により進め、博物館学芸員に求められる博物館についての基礎的な知識を中心に、おおむね次に掲げる内容を扱う。なお、博物館現場の今日的な実情や課題等についても、随時授業の内容に反映させていく予定である。

- 1 オリエンテーション — 博物館概論について
- 2 博物館とは
- 3 博物館学の歴史と課題
- 4 博物館の機能と分類
- 5 世界と日本の博物館史
- 6 沖縄の博物館史
- 7 現代沖縄の博物館
- 8 博物館法 逐条解説 ① — 法制定の目的・博物館の定義と事業
- 9 博物館法 逐条解説 ② — 学芸員・博物館の設置及び運営上望ましい基準
- 10 博物館法 逐条解説 ③ — 博物館の評価・博物館の登録制度
- 11 博物館法 逐条解説 ④ — 公立博物館
- 12 博物館法 逐条解説 ⑤ — 私立博物館・博物館相当施設
- 13 博物館と学芸員の職業倫理
- 14 小考査（博物館法について）
- 15 総括 — ふたたび博物館とは

【履修上の注意事項】

この授業では、展開計画に示す内容はもとより、情報を的確に処理し、それに基づき考え理解を深めるといふ、学芸員に求められる資質の修得もあわせて目的とする。そのため、講義のなかで重要と思われる箇所は各自記録してまとめ、内容の十分な理解に努めること（レジュメや板書は要点を示す程度にとどめる）。なお、課題等は締切後の提出を一切受付けないので、提出期限は厳守するよう留意されたい。

【評価方法】

出席状況、考査、提出物（レポート）により成績評価を行う。なお、詳細については初回講義において説明を実施する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。
毎回配布するレジュメおよび資料により、講義を進める。

【参考文献】

■全国大学博物館講座協議会西日本部会 編 『概説 博物館学』2002年 芙蓉書房出版

博物館学史

担当教員 比嘉 明子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

博物館について、博物館の成り立ちや博物館学の流れを知るとともに、表から見える活動だけではなく、保存や研究といった博物館の土台を支える学芸員の仕事や、博物館に関わる人びと等について学ぶ。学芸員に必要な内から博物館をみる視点を養うことを目指す。

【授業の展開計画】

近代博物館以前の博物館的機能や施設について紹介し、近代博物館の成立や現代までの流れを概観する。博物館学の流れに触れながら、博物館学がどのような学問なのかを考えていく。また博物館について、その中で人がどのように動き、関わりながら活動を展開しているのか、博物館という場はどのようなものなのかについても考えてみたい。

週	授 業 の 内 容
1	講義概要説明
2	博物館のはじまり (1) —西洋
3	博物館のはじまり (2) —日本
4	博物館のはじまり (3) —沖縄
5	博物館学史 (1)
6	博物館学史 (2)
7	博物館学史 (3)
8	博物館に関わる人びと (1)
9	博物館に関わる人びと (2)
10	博物館の機能 (1)
11	博物館の機能 (2)
12	博物館という場 (1)
13	博物館という場 (2)
14	博物館をめぐる問題
15	博物館のこれからを考える
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

普段から博物館や美術館、資料館等へ足を運び、関心を持っておくこと

【評価方法】

出席状況、講義内容に関するコメント、中間・期末レポートにより総合的に評価する

【テキスト】

講義ごとにプリントを配布する

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する

博物館学評論

担当教員 比嘉 明子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

博物館について主に来館者の視点から概観し、多角的に博物館を捉えることを目指す。博物館の抱える問題点や課題等についても言及し、これからの博物館がどうあるべきかを実際の博物館体験を通して、考察する。

【授業の展開計画】

博物館体験は私たちに何をもたらすのだろうか。来館者は博物館体験をどのように記憶しているのか、何を期待しているのか等、来館者の博物館での行動や視点を学び、博物館を評価する基準を考える。またグループで実際に博物館へ行き、来館者からみた博物館がどのようなものかを体験し、その中で博物館を取り巻く状況や問題点、課題等についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	講義概要説明
2	博物館を評価する
3	博物館へ行く前に (1)
4	博物館へ行く前に (2)
5	博物館体験 (1)
6	博物館体験 (2)
7	博物館体験の後で (1)
8	博物館体験の後で (2)
9	博物館体験の後で (3)
10	それぞれの博物館体験
11	[グループワーク] 博物館を評価する基準を考える
12	[グループワーク] 博物館見学
13	[グループワーク] 発表 (1) : 博物館体験・評価
14	[グループワーク] 発表 (2) : 博物館体験・評価
15	博物館体験を創造する
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

普段から博物館や美術館、資料館等へ足を運び、関心を持っておくこと

【評価方法】

出席状況、講義内容に関するコメント、調査/発表、中間・期末レポートにより総合的に評価する

【テキスト】

講義ごとにプリントを配布する

【参考文献】

『博物館体験 学芸員のための視点』ジョン・H・フォーク/リン・D・ディアーキング・著/高橋順一・訳/雄山閣/1996年

博物館教育論

担当教員 前田 一舟

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

博物館は、教育基本法の改正に伴い生涯学習の理念等が盛り込まれ、その実現を図る為、現代社会のニーズに対応した教育活動の場が進められようとしている。その為、博物館学芸員には調査研究に裏付けられた高度な専門性とその学習への活用が強く求められている。

本講義では、博物館における教育とは何かを県内外の事例から学芸員の果たす役割等について資質を養うことをねらいとする。

【授業の展開計画】

地域に根ざした博物館と学芸員の果たす役割は、地域とのリレーションシップづくりが不可欠であり、知的発見の場として、さらに学習の成果の活用という教育活動が重要視されなければならない。講義で取り扱う内容は、知的発見の場を設定する為に欠かせない調査研究をはじめ、その成果をもとに、どのような手法で学校教育と生涯学習等へ活用できるか、学習を通してどのように地域産業に結びつけられるかを博物館の現場から事例を取り上げていく。

週	授 業 の 内 容
1	講義概要説明及び学生からみた博物館の印象は？
2	博物館における教育普及活動とは？
3	展示で教育する
4	チラシとポスターから始める教育戦略
5	風景をデザインする教育
6	教育普及の方法（1）〔事例：展覧会の反省と展望〕
7	教育普及の方法（2）〔事例：ネットラジオ〕
8	文化財と博物館の教育普及活動（1）〔事例：民俗技術編〕
9	文化財と博物館の教育普及活動（2）〔事例：遺跡編〕
10	体験学習と博物館の教育普及活動（1）〔事例：ジャンク博士編〕
11	体験学習と博物館の教育普及活動（2）〔事例：船の模型づくり編〕
12	総合学習と博物館の教育普及活動（1）〔事例：ジュゴン編〕
13	総合学習と博物館の教育普及活動（2）〔事例：音楽編〕
14	市民主導が変える博物館（教育から考えるミュージアム産業）
15	これからの博物館と教育（1）〔発表・講評〕
16	これからの博物館と教育（2）〔発表・講評・まとめ〕

【履修上の注意事項】

講義の進行によっては博物館に関する日本の最新報道や台風等による休講からトピックの順序を変えたり、一部変更することがある。講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語）は、心得ておくこと。また、課題等の提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けないので十分に留意すること。

【評価方法】

本学の学部履修規定第16条に基づき、100点を満点とし、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可として評価を行なう。なお、採点の基準は、講義への出席に60点、レポート及び発表等40点とし、詳細は初回講義の冒頭で説明する。

【テキスト】

講義中ではテーマにまつわるレジュメや論文、資料等を配布する。また、ビデオやパワーポイント等も活用して情報の提供を図る。

【参考文献】

安村敏信『美術館商売』勉誠出版2004年
塚原正彦『ミュージアム集客・経営戦略』日本地域社会研究所1999年
小菅正夫『<旭山動物園>革命』角川書店2006年

博物館経営論

担当教員 一翁長 直樹

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

博物館資料論

担当教員 宮城 弘樹

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

博物館資料についてその収集、整理・保管等に関する理論や方法について講義する。また、実際の博物館資料の取り扱いについて紹介する。

博物館資料に関する知識や取扱の心得を学ぶとともに、博物館の調査研究活動について理解し、博物館資料に関する基礎的能力を養う。博物館資料における学芸員の役割について考え、博物館で収集される資料について深く理解し、学芸員としての資質を養うことを目標とする。

【授業の展開計画】

資料原簿の作成等実習を予定する

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス（授業の進め方について）
2	博物館資料の概念と資料化過程と学芸員
3	博物館資料の種類と分類
4	博物館資料の調査と研究（1）専門科学と博物館の目的
5	博物館資料の調査と研究（2）実践紹介
6	博物館資料の収集と整理（1）収集過程と理念等
7	博物館資料の収集と整理（2）実習・収蔵資料原簿の作成
8	博物館資料の保管と管理
9	博物館資料の取り扱い（1）学芸員と利用者の立場から
10	博物館資料の取り扱い（2）事例紹介（美術・人文）
11	博物館資料の取り扱い（3）事例紹介（自然）
12	博物館資料の公開の理念と展示
13	博物館資料の活用
14	博物館資料の修復と複製等
15	まとめ・博物館資料と地域と市民
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語・飲食）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けない。

【評価方法】

出席、レポートを評価対象とする。

【テキスト】

基本的に講義形式で行い、毎回資料を配布する。

【参考文献】

伊藤寿朗1993年『市民のなかの博物館』吉川弘文館。全国大学博物館学講座協議会西日本部会編2012年『新時代の博物館学』芙蓉書房出版。有元修一他編1999年『博物館資料論』樹村房。青木豊2012年『人文系博物館資料論』雄山閣。

博物館情報・メディア論

担当教員 浦本 寛史

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

博物館や美術館に求められるものは、まず、鑑賞の場・空間の提供である。そして、歴史や芸術、文化を教育する場の提供でもある。その2つの効果的な提供（鑑賞と教育）を実施するには「伝える」という手法が目的別に必要になる。そのため、メディアの効果・効率のよい利用法を習得することは不可欠である。本科目は、「伝える」という原点に立ち、高齢化、少子化、生涯学習という時代にそったメディアの活用と役割を理解することができる。

【授業の展開計画】

第1回	講義	授業の内容確認とメディアの変遷
第2回	講義	メディアとは何か、情報とは何か
第3回	講義	博物館におけるメディアの意義、情報の意義
第4回	講義	メディアとは何か、情報とは何か
第5回	講義	情報教育の意義と重要性
第6回	講義	博物館活動において情報化の役割
第7回	講義	博物館の機能と扱う情報（データベース化とドキュメンテーション保管）
第8回	講義	博物館の機能と扱う情報（デジタルアーカイブの現状と課題）
第9回	講義	博物館における情報発信と管理（インターネットの活用と問題点）
第10回	講義	博物館における情報発信と管理（メディア制作の目標設定と評価法）
第11回	講義	情報機器の活用（必要とされる知識と技術）
第12回	講義	コミュニケーションを支えるICT
第13回	講義	知的財産権（著作権と特許）
第14回	講義	個人情報保護（肖像権）
第15回	講義	権利処理の方法

【履修上の注意事項】

学芸員資格取得希望者を想定した授業構成です。

【評価方法】

中間テスト、最終テスト、レポート、出席状況などを鑑み、総合的に評価する。

【テキスト】

講義に必要なテキスト・資料等は適宜配布する。

【参考文献】

博物館経営・情報論（放送大学教材）、新しい博物館学（芙蓉書房出版）、情報社会の文化（東京大学出版会）、情報・メディア・教育の社会（東信堂）など

博物館展示論

担当教員 一翁長 直樹

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】